

図書館員の四季

習うより慣れろ

名古屋記念病院 佐藤 典子

私がこの小さな住人となって、はや8か月が過ぎようとしている。

初めてこの場に足を踏み入れた時、公共の図書室を想像していた私は、あまりの小ささに驚いたものだった。しかし、いざ仕事を始めてみると毎日届くおびたしい数の雑誌にてんてこ舞い。この小さな場所に、どこにどうするとこんなたくさんの本が入るのか？どうように整理したらいいのか？つくづく大きな図書館の職員の方々の苦勞を感じてしまった。

こうして出入りする雑誌や書籍の後を追っているうちに月日は過ぎていった。ようやく自分のテンポで仕事が回せるようになった今、まだまだ本の先頭切って歩くことはできないけれど、後れず、たまには肩を並べて歩くことはできるかなと思う。

習うより慣れろ、を実感。仕事を通じて、図書館の在り方を考えるようになった。図書室が在る。在るだけ、見るだけ、借りるだけ。それでも成り立ってゆく。受け身ではいけないのではないか？生かすも殺すも、いかに図書室が在るにかかってくる気がする。

図書室に行けば何かが分かる、行けばなんとかなる、といった場になれば……。その為これからやるべき事はまだまだたくさん。先を見つつ、助走している。

担当者としての1年

耳原総合病院 成田 元樹

図書業務に携わるようになってから1年以上がすぎました。この1年間で業務内容はずいぶん変わってきたと感じています。

大きな要因は多分にもれず、相互貸借業務の増大であることは間違いありません。この4月からの医中誌・MEDLINE文献検索新システムの導入はこのことに拍車をかけています。この4月以降他施設に依頼した文献は、昨年同時期の約3倍に上ります。改めて近病図のネットワークにありがたみを感じています。

着任以来、専門知識の豊富な医師より指導を受け、コンピュータ利用の改善をすすめてまいりました。雑誌・単行書の受け入れ作業・相互貸借業務などの実務作業は徹底的に合理化を進めるようにしてきました。

FAX モデムや対応ソフトの導入により文献依頼はコンピュータから直接依頼先のFAXに送り込んでいます。このことは今の自分をおおいに助けています。システム改善がなければ、今頃、風呂敷に書誌事項のメモと申込用紙と目録を包んで自宅に持ち帰っている自分の姿が目には浮かびます。今後もシステムの改善はできるだけ情報を集めながら進めていきたいと考えています。

一方、この1年間で図書館員としての専門性の向上はというと???という状況です。これは自らの怠慢が大きな要因であるということは間違いありません。利用者の要求に応えたサービスを提供するためには、専門性の向上は欠くことはできないと思います。今後は、そのことに努めていきたいと考えています。その面でも近病図の存在は大きな励みになっています。

さて、今回原稿依頼をうけ、病院図書室のバックナンバーを読み返してみました。自らの文才のなさを嘆く今日この頃です。